

JA西三河が取り組む自己改革 「JA西三河を核とした 持続的な産地総合力の向上」をめざして

西尾市の農業生産額は167.9億円【平成29年市町村別農業産出額（推計）出典】。米・麦・大豆を中心とした水田農業をはじめ、GIや県GAPの認証を取得した「西尾の抹茶」の原料となるてん茶、キュウリ、イチゴ、トマトの施設野菜、鉢物、カーネーション、バラ、菊など多種多様な農産物を生産する県下でも有数の農業地域です。また花き部門では、全国7位の産出額(35.2億円)を誇っています。

当JAでは、農家所得向上と活力ある地域農業のさらなる振興に向けて、策定した地域農業ビジョンを推し進めています。

産地分析・農家の意向調査からみえた地域農業の課題

●産地規模縮小の主な要因



「地域農業ビジョン」を策定し、産地力強化を図っています！

産地力強化1 生産性の向上と安定

- 産地の生産技術力底上げ対策
- 栽培技術開発・実証
- 省力化技術実証

⇒匠の技術と長年の経験を「見える化」することで産地全体でノウハウを共有し、生産現場での技術開発と普及スピードを飛躍的に向上させます。

ICTによる『養液栽培』の技術確立で
全国トップクラスのスマート農業を実証し、
愛知県で唯一、国の研究事業に採択されました！
(施設園芸の採択数 8/46)

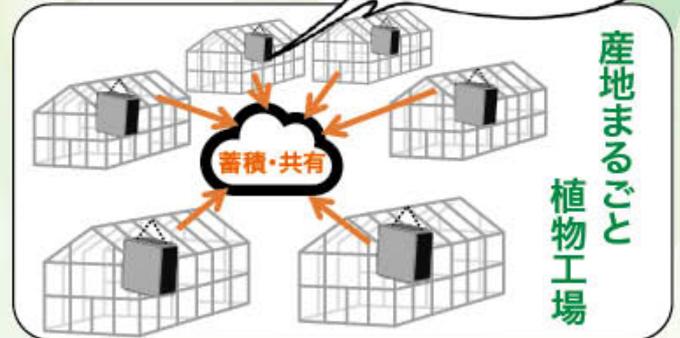
ここがすごい!

「農業ICTツール活用」によるJA西三河きゅうり部会の成果

- ★全国平均の**2.6倍**の生産性を達成!
- ★**新規就農**で部会の平均単収を達成!!
- ★部会員のうち、**20代~40代が3分の1**、**50代が3分の1**を占めています!!!



これまでICTを活用し産地全体で取組み、生産性向上に大きく貢献してきました。今後も新技術導入により、最先端の農業経営モデルとして実証を進めていきます!



スマート農業ついに始動!

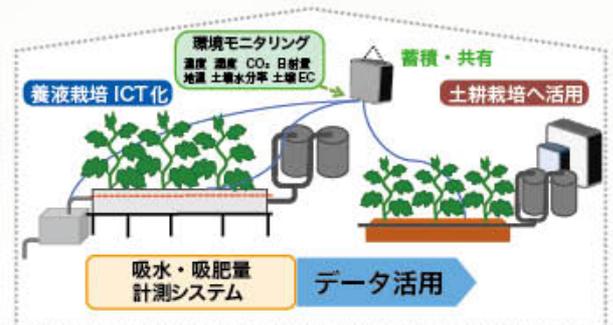
当JAでは平成27年より、JA西三河きゅうり部会を中心に生産現場にあった農業ICTツールの開発と活用を進めてきました。また平成28年には生産技術の標準化と向上をめざし、食・農クラウド「Akisai(秋彩)」、環境測定器「あぐりログBOX」の活用を開始。同時に植物体の根域環境のコントロールを目的に、『きゅうり養液栽培実証試験』をスタートさせて、今年度で取組み4年目となります。

そしてついに!平成31年3月20日、「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」及び「スマート農業加速化実証プロジェクト」に採択され、国の研究費を使った“スマート農業”が始動します!!

養液土耕栽培+ICT

●養液土耕栽培+ICT 《西尾型ハイブリッド養液土耕栽培》 (養液栽培+土耕栽培)

ハウスの一部に養液栽培を導入し、養液栽培で得られた根域環境データを同ハウス内の土耕栽培へ応用します。養液土耕栽培+ICTにより、生産性向上と養液技術の普及を図ります。

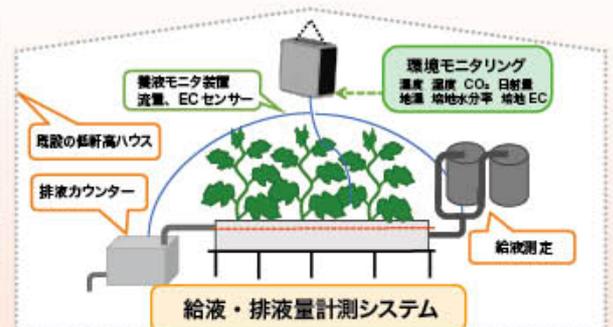


養液栽培+ICT

●養液栽培って?

国内で生産するキュウリは、土で育てる土耕栽培が主流。養液栽培は、土を使わずに肥料を水に溶かした培養液によって作物を栽培する方法です。

植物体(キュウリ)が吸った水や液肥の量を把握し生育状況を予測することで、生育の最適化を実現。周年栽培により労働の平準化を図り、企業の要素を含めた大規模化につなげます。



「あぐりログBOX」が24時間集めたハウス内の環境データを「Akisai」で蓄積・分析。地上部(ハウス内)の環境制御に加え、養液栽培+ICTにより地下部の根域環境を制御することで省力化&収量増加を可能に。養液栽培を全面導入することで、キュウリ栽培の経営の高度化を進めます。

高度な環境制御技術と西尾型ハイブリッド養液土耕栽培による増収とともに、周年養液栽培により労働の平準化を図って規模拡大と経営の高度化を進めます!

産地力強化2 担い手確保・育成・経営規模拡大

● 新規・親元・U・Iターン就農対策

- 農業経営高度化対策
- 農地確保・規模拡大対策

⇒新規就農・親元就農の受入体制整備により、産地内でのスムーズな生産者の育成と経営継承を行います。

農家として、
立派に独り立ちできる
ノウハウを身に付ける
ことができます



出荷実習で価格決め

全国有数の
イチジク産地で学ぶ!

いちじくスクール



選別・パック詰め作業



にしお農業塾

生育状態を確認

にしお農業塾 《平成24年より取組開始!》

- ・ 農業塾生 74名
- ・ 農業塾出身産直部会員 21名
- ・ 農業塾出身販売農家 29名

20種類以上の露地野菜栽培を学ぶほか、実技講習で栽培した野菜をJA産直店舗で販売しています。

いちじくスクール 《平成27年より取組開始!》

- ・ いちじくスクール修了生 46名
- ・ 新規就農 13名 233万円
- ・ 規模拡大 14名 135万円

30代から40代の若い世代の新規就農者を毎年送り出し、産地活性化に貢献しています。

NEW

いちごスクール 《平成31年(令和元年)より取組開始!》

イチゴの生産量県内トップを誇る西尾市で、新規就農者向け施設栽培イチゴ講座「いちごスクール」が今年6月よりスタートします!「いちごスクール」では、生産者が直接栽培技術を指導する実務研修から、経営研修・農地取得・補助金申請などを行い、翌年11月の本格出荷をめざします。



産地力強化3 営農拠点の体制整備

- 営農センター情報発信機能強化
- 品目横断組織の設立
- 集出荷に物流の機能向上検討

統括部署を新たに設置し、
小牧センターを拠点に営農事務所と購買店舗に
特化した施設整備を進めていきます!

産地力強化4 販売強化策

- **農産物への付加価値化**
- 産地としての付加価値化
- 販売交渉力の強化

⇒実需者に対し、安心して取引が行える産地として付加価値を高めて有利販売に努めています。
あわせて、地域住民に対して地産地消を促し「地域農業応援団化」を推し進めます。



(株)スギ薬局

- **コシヒカリ(5kg) : 愛知、三重、岐阜の441店舗のうち、350店舗で販売**

平成30年9月の販売開始より約152トンを販売し、
年間目標の240トンに対して**進捗率は63.3%**

- **あいちのかおり(5kg) : 愛知、三重、岐阜の200店舗で販売**

平成30年10月の販売開始より約85トンを販売し、
年間目標の112トンに対して**進捗率は75.9%**

イオンリテール(株)

- **あいちのかおり(5kg・10kg) : 愛知県内29店舗で販売**

平成30年11月の販売開始より5kg・10kgあわせて約66トンを販売し、
年間目標の120トンに対して**進捗率は55%**

また、特売チラシに掲載された場合は、愛知・静岡全店39店舗で販売します。

⇒販売開始から好調に推移しており、引き続き「愛知県西尾市産米」の認知度向上と販売数量の拡大を図ります。

播種前出荷契約米(事前契約買取方式)の取組み

「あいちのかおり」を固定価格で買取契約することで、相場変動に左右されず、農家の経営安定に貢献。平成30年産から5年契約で、平成31年産「あいちのかおり」は456トンを取扱います。
主にカレーハウスCoCo壱番屋、はま寿司、ジョイフル、かつや等へ販売しています。